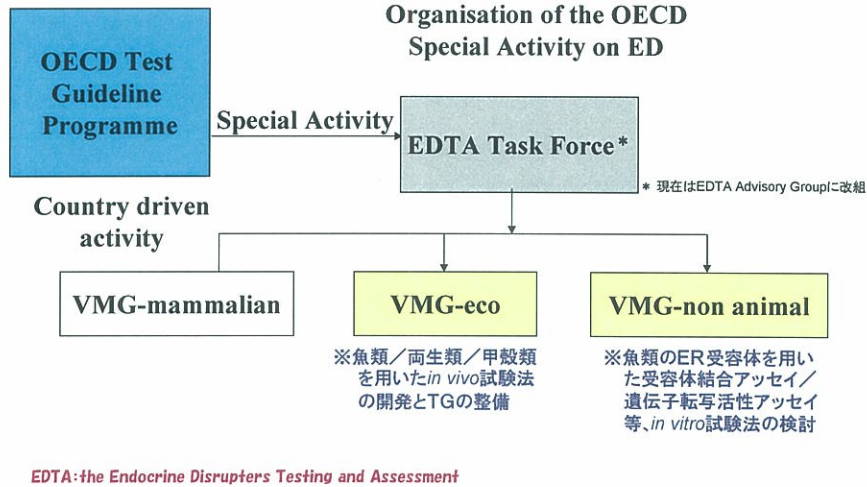
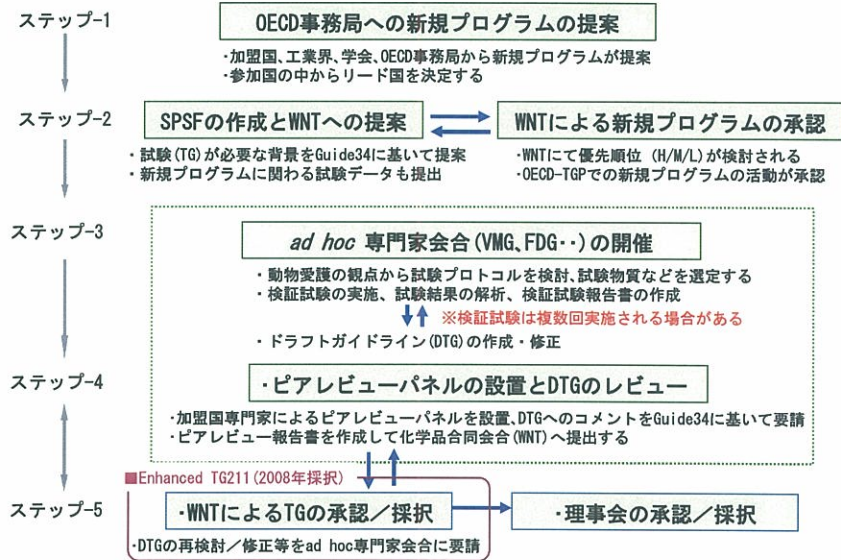


ションテストによる試験法の検討も済ませており、別途行った実験により、幼若ホルモン4種と幼若ホルモン類似化学物質として昆虫成長制御剤6種についていずれもオオミジンコでオス仔虫生産誘導を確認している他、他種ミジンコでも同様の現象を確認済みである。一方、昆虫成長制御剤としてではなく生産・使用されている化学物質で幼若ホルモンかく乱作用が疑われる例についてはその情報は限られている。ここでは、幼若ホルモンとその類似化学物質（昆虫成長制御剤）以外でミジンコのオス仔虫生産を誘導する可能性のある物質を文献検索によって選び出す方法について検討する。

The OECD Work on ED: A Special Activity of the Test Guideline Programme



OECDテストガイドラインプログラムにおける無脊椎動物試験法の進捗状況



無脊椎動物を用いた試験法の概要

(添付資料6)

Enhanced TG 211

- 生後24時間以内の仔虫を個別に曝露
- 21±1°C、16 L: 8 D
- 緑藻クロレラをエサとして毎日与え、隔日換水
- およそ一日に一回脱皮をくり返しながらか試験個体は成長し、試験開始後8日目頃から放仔をはじめ
- その後は2-3日に一回脱皮と放仔を繰り返す
- 毎日仔虫を抜き取り計数し、仔虫の性別も行う

